

全酪連会報 9

2020 SEP No.660

酪農とのかけはし／
元木良子さん
(学校法人野幌キリスト教学園
のっぽろ幼稚園)

第71年度(令和2年度)
通常総会開催される (詳細報告)

酪農トピックス／
「伊那酪農協青年部家族懇親会」
開催される(東京)

農林水産省発
令和2年7月豪雨による
農林水産関係被害への支援対策



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会



ZENRAKUREN

酪農とのつながり

当園はこの地域に初めてできた幼稚園で、1953年に野幌教会付属幼稚園としてスタートしました。野幌教会は酪農学園の創設時にキリスト者の職員が設立した教会です。で、設立当初より学園とのつながりは深く、のっぽろ幼稚園として園舎が出来た



▲ 元木園長先生(右から2人め)と幼稚園教諭の皆さん

後も退任した学園職員が園長を務めることもありました。

私の出身は名寄で、1980年に教会の縁により幼稚園教師として当園に赴任しました。私の実家は酪農家ではありませんが、学生時代に名寄道北クリスチャンセンターで開催される三愛塾(※)で食事作りのアルバイトをしていましたので、酪農家と知り合い牧場に遊びに行かせてもらったりした経験があります。

食事は「残さず食べる」ではなく「楽しく食べる」

世界に目を向けて毎日食べ物で豊かにある幸せを伝えていきますので、食事は「感謝して喜んで食べることを一番のポイントにしています。バランス良く食べることは健康な心と体の発達には何よりですが、まずは食事を楽しむことが大切と考えているので、嫌いなものは無理に食べさせることはしません。皆と一緒楽しく食べるなかで、少しずつチャレンジしていくと、そのうちに味覚も



変わり食べられるようになる、そんなふうに伝えていきます。ここ数年は、おやつはパクパクと食べるのにごはんになると表情が曇ってしまう、子どもたちのそんな様子が大変気がかりです。

とわの森三愛高校との食育活動

農業体験は、食への関心や感謝の気持ちを作る大切な「食育」だと考えています。そんな思いから、とわの森三愛高校の農場の一部を借りて年長がとうきびの収穫体験を行う「なかよしファーム活動」を20年ほど続けさせてもらっています。とわの森高校の教員が退職後に園長として赴任された際、高校のほうからお声がけいただいたのが始まりです。至れり尽くせりで園児が畑に行くの

酪農とのかけはし



第27回 学校法人野幌キリスト教学園ののっぽろ幼稚園

食べ物への感謝の心を育てたい

園長 元木 良子さん

のっぽろ幼稚園の沿革

- 1953年(昭和28年) 日本基督教団野幌教会の公益事業として始まる。
- 1979年(昭和54年) 『学校法人野幌キリスト教学園ののっぽろ幼稚園』となる。
- 2019年(令和元年) 施設型給付を受ける幼稚園となる。
※10月より保育料の無償化が始まる。

園長 元木 良子さんの

1日のタイムスケジュール

8:30~
9:30▶

玄関で園児を迎える

職員室でデスクワーク
または保育に入る

12:30▶

昼 食

職員室でデスクワーク
または保育に入る

14:00▶

園児降園

一日の報告・会議など

17:00▶

退 勤

※三愛塾

1950年酪農学園短期大学の初代学長、樋浦誠氏の呼びかけによって始められた、農村青年に向けた農閑期を利用した短期の大学教育。酪農学園に限らず専門の講師が塾長として赴き、酪農に関する知識や技能のほか、歴史、社会科学、芸術など多岐に渡る講義が行われた。現在は、道北三愛塾(年間2回)、上富良野三愛塾など一部の地域で年1回のペースで行われている。

全国の酪農家に 一言!

チーズ、バターが大好きです。これからも美味しい牛乳をよろしく願います。私たちはこれからも預かりしたお子さんに、日々の食事、美味しい農作物への感謝をする心を教えていきたいと思います。



▲ なかよしファームでの種まき

は種まきと草むしりと収穫の3回程度なのですが、それでも土に触って食べ物を育てる喜びは大きいと思います。また10歳以上も違うお兄さんお姉さんとの交流を子どもたちにとっても楽しみにしています。

園畑でも枝豆とじゃがいもを育てていて、秋の収穫感謝の礼拝で、収穫した野菜を豚汁にしていたくことになっています。その時にはとわの森の生徒さんをお招きして、みんな



▲ 収穫感謝の礼拝 美味しい豚汁をいただきます

で食事をします。子どもたちが喜んで美味しそうに食べる姿が見られ、私たちにとっても楽しい時間です。農に触れることの大切さを感じる瞬間でもあります。

**牛乳・酪農に触れる機会を
ありがとございます**

園では給食を外注していることもあり、費用の面で保護者の負担が大きくなってしまうため日常的な牛乳の提

供は行っていない。ですが、毎年の牛乳キャンペーン(父の日に牛乳を贈ろう!)でお持ちいただく牛乳は子どもたちにも喜んでもらっています。一緒にいただくミルクも、牛乳そのものの味がちよつと苦手な子にも飲みやすく良いアイテムだと思います。

私はのっぽろ幼稚園に務めて40年ほどになりますが、以前はこの近辺も本当にのどかで、牧場もありました。子どもたちと近くの牧場へ散歩に行ったり、酪農学園の牛舎を見学させていただきましたが、今は衛生上難しくなっていますので、実際の牛を見る機会はありません。体験はできなくても子どもたちには「知る喜び」を味わってほしいので、保育者はいろいろな話を聞かせています。北海道で、酪農学園のすぐ側という土地柄、酪農や牛の話もしていますよ。キャンペーンで来て下さる酪農家の

方に「のっぽろの子どもたちの質問は鋭い!」と言っていただけたようで(笑)、とても嬉しいことです。

隔年でキャンペーンに来てくださいますが、酪農家の方に牛や牛乳のお話しをしていただけることは、とても良い経験させてもらっていると思います。子どもたちも、牛さん(着ぐるみ)が来てくれるのを楽しみにしていますよ。来年以降もぜひまたいらしてくださいね。



▲ 父の日キャンペーンでは元気にクイズに参加してくれる園児たち

第71年度(令和2年度)

通常総会 開催される

詳細
報告

本会は、7月21日(火)、都市センターホテル(東京都千代田区)において、第71年度通常総会を開催し、令和元年度の事業実績、剰余金処分案、令和2年度の事業計画案の承認を得るとともに、役員の補選を諮った。

午後1時00分、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った砂金甚太郎代表理事会長は、会員並びに来賓各位の参加に対し、謝意を述べた。続いて、酪農を取り巻く情勢について、

「新型コロナウイルスの感染拡大による影響は、多くの人命が奪われたばかりでなく、各国で外出制限等の措置が取られたことなどにより、我

が国も含め、世界の経済に多大な損害をもたらしている。

酪農乳業に関しても、小中学校の休校による学乳向け生乳のキャンセルや、緊急事態宣言による休業要請で飲食店等向けの業務用乳製品の需要が減少し、生乳需給が大幅に緩和するなど、大きな困難に見舞われている。

更には、先日の令和2年7月豪雨は、日本各地に大きな被害をもたらした。

被害に遭われた方々には改めてお見舞いを申し上げたい。

先般公表された農水省の畜産統計によると、全国の酪農家戸数は1万5千戸を割り込む1万4千4百

戸になっており、依然として減少傾向が続いている。酪農生産基盤の拡大は一朝一夕でどうにかなるものではないが、私も全酪連としては、国内唯一の酪農専門全国連として、

3月に策定された「酪肉近」の方針のもと、今できること

を着実に実行していくと同時に、これまでのやり方にとらわれず、現在の酪農基盤の維持・拡大に貢献してまいる所存である。」

とし、続いて、本会の事業実績に関して次のように述べた。

「令和元年度については、会員の皆様のご理解とご協力をいただき、税引前当期利益で11億6千6百万円という実績を残すことが出来た。ただ、近年続いてきた酪農部門の収益悪化への対応の一環として、今年の7月1日に、狭山工場の事業譲渡という苦渋の決断をするに至った。この決断が、本会の経営安定化に少しでも寄与するよう、最大限努めたい。」

とし、最後に会員・酪農家の皆様へ日頃の感謝を述べるとともに、引き続きのご支援をお願いし、開会の挨拶とした。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部・渡邊毅部長、農林中央金庫・岩曾聡常務執行役員をはじめとして、一般社団法人全国酪農協会等関係団体からご臨席をいただいた。

農林水産省生産局の渡邊畜産部長は、来賓挨拶の冒頭でご列席の皆様への日頃の感謝に加え、全酪連に対



▲ 砂金会長



▲ 渡邊部長

して、

「昭和25年の設立以来、全国連として生乳の需給調整や生産基盤の強化及び、品質・流通管理に重要な役割を果たしてこられた。皆様方のご尽力に対して深く敬意を表したい。」と述べられた。

続けて、令和2年7月豪雨の被災地に向けてお見舞いの言葉を述べられ、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の酪農・乳業業界への影響について、

「学校給食用牛乳の需要の喪失及び、業務用乳製品需要の大幅な減退など酪農乳業は大きな影響を受けた。このような中、酪農乳業業界は関係者一体となり、生乳を脱脂粉乳やバ

ターなどに仕向けることによって、廃棄が生じないよう尽力された。また外出自粛により生じた、巣ごもり需要に対する家庭用バターの増産といった、激変する生乳需給にも対応いただいたところである。

国としてもこのような事態を改善するべく対策を打っている。まず1点目は学校給食向けの生乳の、加工用への振替に伴う価格差についての支援である。また、脱脂粉乳の在庫解消のため、飼料用への転換に伴う価格差への支援も行っている。さらには乳業メーカーによるバターやチーズなどへの生乳仕向けに対する協力金の交付も行っている。他にも医療・福祉施設への牛乳の無償提供への支援なども行っているところである。

さらに、牛乳の消費拡大に向け、4月21日から「プラスワンプロジェクト」と称して、消費者の方々に向けて牛乳をもう一本及びもう一杯消費してもらおうと呼び掛けた。環境省も含めたこのような取り組みによって、生

乳の廃棄という事態は回避できた。この間の酪農乳業関係者の皆様のご努力・ご協力に改めて感謝したい。」

とした。また、今後の酪農をめぐる情勢については、

「本年3月31日に策定された新たな「酪肉近」に基づき、酪農乳業の関係者が意欲をもって生産に取り組んでいただけるよう、今後10年間に於いて、生産基盤の強化・需要に応えた畜産物の供給・産業としての持続的発展の、3つの項目を柱として実現を図っていききたい。酪農乳業については、関係者の意見を踏まえ、令和12年度の生乳生産目標を780万tと掲げたほか、都府県酪農の生産基盤の回復・北海道酪農の持続的な成長・全国酪農経営の持続的な成長と発展の3つを目標に、都府県における乳用メス牛の増頭及びICTを活用した労働負担の低減、酪農ヘルパー等への支援の強化、牛乳乳製品の需要拡大、合理的な生乳流通体制の構築などを図っていききたい。」



とした。続けて、新たな補給金制度に関して、

「年度途中での一方的な出荷先変更などのいわゆる『いいとこどり』の発生を防止して、制度が適切に運用されるよう、生産者団体が生乳取引を拒める正当な理由についての事例集をホームページで公表したところ

である。
全酪連及び会員の皆様方には円滑な制度運営にご理解とご協力を頂きたい。」

と述べられ、最後に、

「全酪連においては、今後も引き続き酪農家の皆様の先頭に立って、我が国の酪農のさらなる発展に貢献していくことを期待申し上げます。」と締めくくった。

また、農林中央金庫の岩曾常務執行役員は、挨拶に先立ち、九州地区、岐阜県、長野県を始め、全国各地を襲った豪雨によって被災された方々に対し、お見舞いの言葉を述べられた。

そして、総会開催へのお祝いの言葉とともに、農林中央金庫の日ごろの業務への理解・協力にお礼の言葉を述べられた後、酪農を取り巻く環境について、

「2019年度の国内の生乳生産量は、北海道での増加分が大きく、前年度対比で1.1%増加と4年ぶりに前年度を上回った。一方で、都府県では自然災害などが大きく影響し、一部前年を上回る地域もあったものの、引き続き前年度を割る結果となり、子牛価格の不透明さなども含めて、厳しい状況であると認識している。

そのような中、2020年は3月より学校給食が長期停止となり、かつてないほどに、



▲ 岩曾常務

生乳需給状況が緩和となった。こういった状況の中で、全酪連が広域需給調整機能の発揮と、会員皆様のご努力により生乳廃棄という最悪の事態を免れることができたことに対し、敬意を

表したい。」

とし、続けて全酪連の業績について、

「中期事業計画の2年目である2019年度において、計画を上回る業績を上げていることに加えて、経営基盤の強化・

改善のため、狭山工場の売却といった大きな決断をされたことについて、会員・役職員のご努力並びに砂金会長の強いリーダーシップの賜物だと感じている。

農林中央金庫としても、酪農協系の統の振興に向けた金融対応はもとより、酪農関係団体の経営改善の取り組み支援など、全面的に全酪連の取り組みを支援していく所存である。」と述べられた。

最後に、「全酪連並びに会員の皆様のますますのご発展と本日ご臨席の皆様のご健勝を記念し、挨拶とさせていただきます。」と締めくくった。

この後、伊藤一成氏（みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長）を



▲ 隈部副会長

議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認された。

議事終了後、隈部洋副会長理事が閉会の挨拶の中で、退任役員に対し敬意を表するとともに、新役員と力を合わせて事業計画達成に向けて邁進していく所存であることを述べた。続けて、各来賓からの豪雨災害に対するお見舞いの言葉に対して謝意を述べた後、最後に、

「酪農全国連として、しっかりと歩んでいく所存である。皆様の引き続きのご指導、ご協力をお願いしたい。」

と呼び掛け、第71年度通常総会は終了した。

東京
支所発

「伊那酪農協青年部家族懇親会」開催される

7月18日(土)に伊那酪農業協同組合(長野県伊那市、小松平一代表理事組合長)にて組合青年部主催の家族懇親会が開催されました。

例年は8月にボウリングと焼肉の懇親会が行われていましたが、青年部内で『なにかしら行事が行えないか』、『今年はなにも行わないのか』、と意見が交わされましたが、屋外実施を前提に考え組合敷地でのバーベキューを行うことを決めました。

今年は7月頭から長雨がやまず、開催の数日前も伊那市内では避難勧告が発令されるほど天候はよくなく、当日も曇天ではありましたが雨続きの中では恵まれた天候のもと、青年部員、家族、酪農ヘルパーなど35名が参加しました。

『新型コロナウイルスの問題から今年は視察研修も行えないであろう。しかし部内の懇親、情報交換が図れないのも惜しい。これまで行っていたお互いの家族・子ども同士の親睦を続けていくためにも、今の社会情勢を勘案した上で懇親を深める方法はあるであろうと考え

て開催しました。』と網野雄二青年部長からの挨拶と乾杯の発声があり、懇親会は始まりました。用意した牛肉10kg、ソーセージ100本、焼き鳥100本、焼きそば2kgはさりと全員の胃袋へ。氷5kgを用意したかき氷コーナー也大盛況でした。

その後行われたビンゴ大会は、景品のバリエーションの豊富さもあり、奥様も子供たちも大興奮。じゃんけん大会も行い組合手配の景品と協賛品を全員で分け合いました。最後に参加者全員で後片付けをして散会しました。

新型コロナウイルス感染の問題から様々なイベントが自粛・中止となっています。待機・自粛で家族間の交流ができない中、様々な制約がありましたが有意義な時間を過ごすことができました。(N.T)



原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先

皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

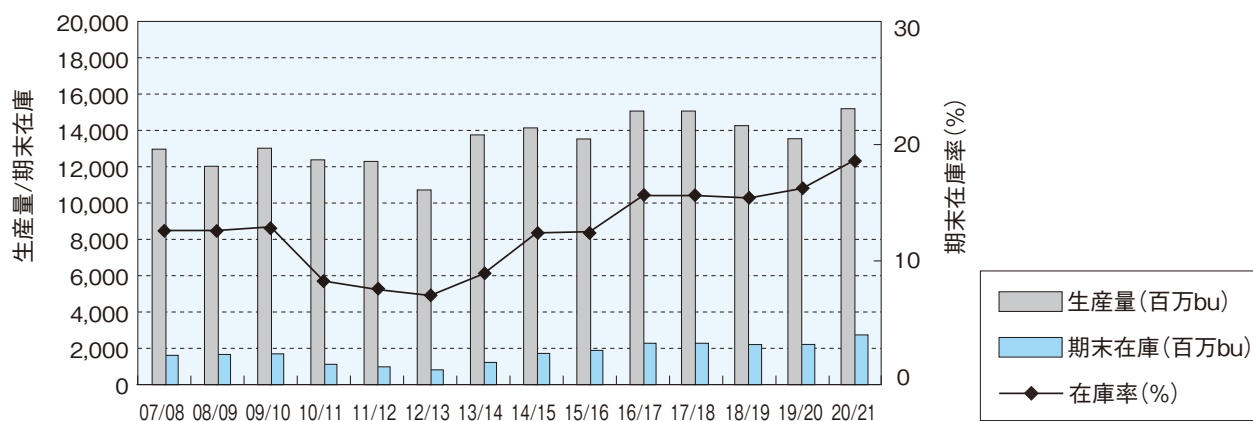
〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

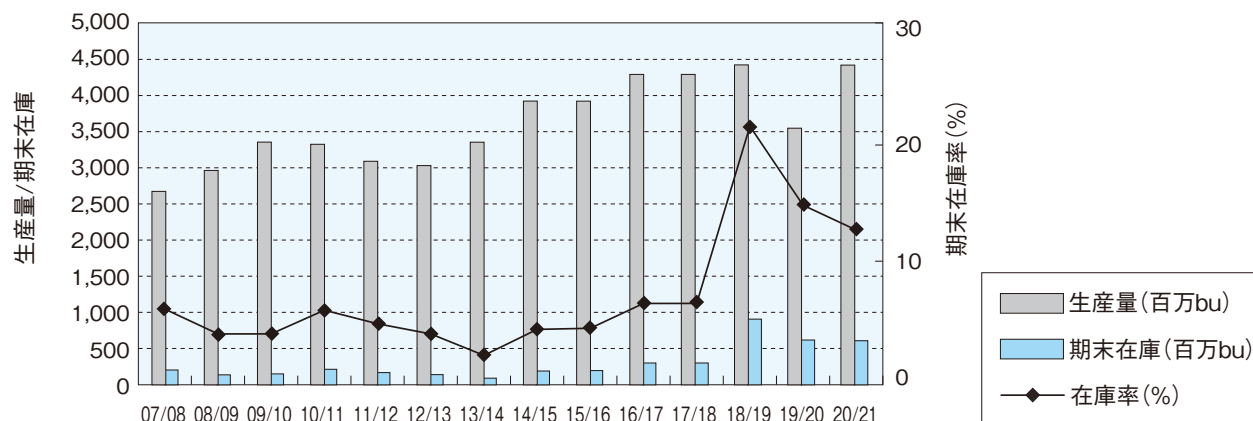


		19/20年産	20/21年産
8月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	89.7	92.0
	単 収(ブッシェル/エーカー)	167.4	181.8
	生 産 量(ブッシェル)	158億8,300万	175億3,100万
	需 要 量(ブッシェル)	136億3,500万	147億7,500万
	期末在庫(ブッシェル)	22億2,800万	27億5,600万
	在 庫 率	16.3%	18.7%
トウモロコシ 相場動向	中西部で起きた強風の影響でアイオワ州のトウモロコシ生育状況が不安視されている。乾燥と先週の強風被害から単収の減少は決定的であり、アイオワ州は米国で最もコーンの生産量が多い主要産地であることからシカゴ相場は底堅く推移する見通し。また、中国による米国産トウモロコシの買い付けは未だ続いており、しばらくは油断できない状況。		
大豆粕相場動向	シカゴ相場は軟調に推移しているものの、輸入の主である中国産は飼料需要が堅調で相場も高止まりしており、輸入大豆粕は前期比値上げで推移している。国産大豆粕は食用油需要が引き続き低調で強含みで推移している。		
槽糖類	【一般フスマ】 発生が引き続き低調で在庫も少なく推移している一方、代替する他の槽糖類も逼迫していることから飼料需要は堅調で、年末に向けて非常に逼迫する可能性がある。		
	【グルテンフィード】 外食自粛に加え長梅雨、酷暑も重なり異性加糖販売は引き続き低調となっており、ビールや製紙原料向けのスターチ需要も低調で国産は非常に逼迫している。中国産も飼料需要が堅調なことや原料となるトウモロコシ相場が高騰しており価格面でも優位性が無い状況となっている。		
海上運賃	海上運賃は引き続き中国向け鉄鉱石需要増加に伴うケーブサイズ・パナマックスの騰勢が最も激しく、堅調に推移している。また中国が米国農産物(大豆やトウモロコシ)を大量に買い付けており、船腹供給がタイトになってきていることもフレートが上昇している要因である。米国ではこれから大豆の新穀期を迎え、輸出のピークを迎えることから今後もフレートは下支えになると思われる。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



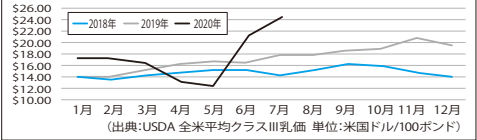
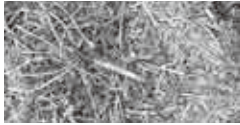
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和2年 8月

北米コンテナ船情勢	COVID-19の影響で減少していた世界的貨物の流通量は徐々に回復傾向にありますが、一部船社では依然として航路により需要に応じた減便を行い本船の運航間隔を調整しています。北米発の輸出向けの船腹は一時の混乱から脱し落ち着きを取り戻しており海上運賃も安定し始めていますが、反対にアジア発北米向けは本船減便の影響と経済活動の回復を受け船腹が逼迫した状況が続いており、海上運賃は高止まりしています。米国の空コンテナ不足は改善傾向にありますが、地域によっては依然として不安定な状況が続いており引き続き注視が必要です。
米国乳価状況	8月5日にUSDA（米国農務省）が発表した7月の全米平均クラスⅢ乳価は、乳製品100ポンドあたり\$24.54と前月比\$3.5上昇しており、この乳価は歴史的に高い水準です。この相場はCOVID-19の影響を受け乳製品需要減少を危惧した米国政府による買い支えと、自宅過ごす時間が多かった各家庭による小売店への需要増加、加えて外食産業が再開したことによる需要増加によるものと考えられています。  （出典:USDA 全米平均クラスⅢ乳価 単位:米国ドル/100ポンド）
ビートパルプ	【米国産】 主産地ミシガン州では、夏季に降水量が限定的だったことに加えて、気温が高かったことから、収量が例年に比べ減少することが予測されています。スケジュールの早い圃場では8月中旬から収穫が開始される見込みです。ノースダコタ州では一部で大雨に見舞われたものの、例年並みの生育状況であり、8月10日頃から収穫が開始される予定です。ミネソタ州における生育状況は良好です。過去5年の平均収量を上回ることが予想されており、一部のスケジュールの早い圃場では、例年よりも1か月近く早い8月10日から収穫が開始される見込みです。
アルファルファ	【ワシントン州】 コロンビアベースンでは2番刈の収穫作業は終了し、南部のスケジュールの早い圃場では3番刈の収穫作業が始まっています。2番刈の作況は収穫期間中好天に恵まれたことで、降雨被害はほとんどなく色目の良いアルファルファが収穫されています。半面、気温が高く乾燥時の強風とベアリング時に夜露が十分に降りなかったことから、ドライな仕上がりのものが見られています。  ▲ アルファルファ 2番刈 コロンビアベースン 7月下旬撮影
	【オレゴン州】 クラマスフォールズでは冷涼な気候と早魃の影響で1番刈の生育状況が心配されたものの、収穫作業は例年通り6月上旬から開始しました。一部で雨当たり被害があったものの、作況はますますで上級品も発生しています。産地では2番刈の収穫作業が始まっています。クリスマスバレーでは1番刈の収穫作業は終了しており、2番刈の収穫が開始しています。1番刈は収穫期に好天に恵まれたことから、上級品が多く発生しています。一方コロンビアベースン産1番刈の不作を受け、高成分品を求める米国酪農家や輸出業者が旺盛に買付けを行っており、産地価格は高騰しています。  ▲ アルファルファ1番刈 左:クラマスフォールズ産 7月中旬撮影
	【ネバダ州・ユタ州】 ユタ州中部では1番刈の収穫を5月末から開始しました。好天に恵まれたため雨当たりの被害なく収穫を終えており上級品も発生しています。7月中旬から2番刈の収穫が開始しています。ネバダ州では1番刈の作況は地域により様々で北部では収穫時に断続的な降雨があったことから、輸出向けの品質は限定的です。他方で同州中西部では1番刈の一部で降雨被害があったものの比較的順調に収穫を終了しています。現在産地では2番刈の終盤を迎えています。  ◀ アルファルファ1番刈 ネバダ州中西部 7月下旬撮影
	【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは5番刈が収穫中です。一部の早い圃場では6番刈の収穫が開始されています。産地では連日気温が40℃を超えているため、分析値も落ちておりサマーヘイと呼ばれる中級品以下の品質が中心に生産されています。
チモシー	【米国産】 主産地であるコロンビアベースン、キティスバレーでは1番刈の収穫作業が終了しました。6月上旬から中旬にかけて、断続的に降雨があったため降雨を避けることができた早刈りの上級品の発生量は限られています。反面雨当たりの影響を受けた色抜けや、適期で刈り取りができなかったことによる茎の硬さ、茶葉の多く混入したチモシーの発生が例年よりも多くなっています。20年産は主産地であるコロンビアベースンでの作付面積が前年比2割ほど減少し19年産からの上級品グレードの繰り越し在庫も少なく、20年産の上級品の供給力が限定的であることから上級品の産地相場は高騰しています。
	【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジでは例年より1週間遅い7月上旬から1番刈の収穫が開始し、現在収穫は終盤を迎えています。収穫期に天候が安定していたため20年産は上級品から中級品の発生が中心になることが予想されています。非灌漑エリアである同州中部のクレモナでは6月から7月の前半までは降雨が続いていたものの、現在では天候は回復しており、8月上旬から収穫が本格化する見込みです。米国産の不作を受け、カナダ産に対する引き合いが強くなっているため、現地相場は強含みで推移しています。
スーダングラス	主産地であるインペリアルバレーでは20年産1番刈は概ね終了し、2番刈の収穫が本格化しています。20年産は1番刈の収穫開始が例年に比べ2-3週間ほど遅れたことから、茎サイズの安定した上級品の発生が少なく、中級品の発生が多くなっています。
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。 産地では3番刈の収穫が後半戦を迎えており、スケジュールの早い生産者では4番刈の収穫を開始しています。気温も高く湿度も出てきているため、茎の硬く色目の抜けたクレイグラスも発生しています。産地価格の低迷から、3番刈でクレイグラスの生産を中止し他の換金作物に転作する生産者も見られています。
ストロー類	主要産地のウィラメットバレーでは、アニュアル種のライグラスストローの収穫が終了しています。8月上旬からペレニアル種の収穫作業が開始される予想です。春先から産地の輸出業者でストロー製品が完売状態となっています。他方で韓国を中心とするストローの需要が引き続き強く、輸出業者は在庫を確保するために現地相場は堅調に推移しています。
オーツヘイ／ウィートストロー	【豪州産】 生育期の中盤に差し掛かっていますが全豪的に平年を下回る降雨量となっています。南豪州では非常に良いスタートを切ったものの、7月は冷涼な気候が続いたため生育にやや遅れが見られています。東豪州は直近冷涼な気温が続いたものの生育は持ち直しており順調です。西豪州は播種後に乾燥した気候による生育の遅れが心配されましたが、直近では広範囲で降雨があり順調に生育しています。

令和2年7月豪雨による 農林水産関係被害への支援対策

令和2年7月豪雨では、全国各地の農林水産業にも多大な被害がもたらされました。被災された地域の方々には、改めてお見舞い申し上げます。

農林水産省は、7月30日、被災された農林漁業者の方々が営農意欲を失わず一日も早く経営再建できるように、総合的な対策を講じました。

酪農・畜産に係る被害についての経営継続支援として以下の対策が講じられています。

- 簡易畜舎等の整備、畜舎や機械等の簡易な修理、土砂・がれき等の撤去等に要する経費の助成。
- 被災家畜の避難・預託、死亡した繁殖用家畜・乳用牛の代替家畜の導入支援。
- 不足する粗飼料を購入する場合等に要する経費の助成。
- 乳牛に対する乳房炎の治療・予防管理等に要する経費の助成。
- 停電時に緊急的に行った非常用電源の確保等に要する経費の助成。
- 酪農ヘルパーの被災農家への出役の支援。
- 被災した畜産農家の資金繰りを支援するため、肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）における生産者負担金の納付猶予、肉用子牛生産者補給金制度における生産者負担金の納付期限延長等の実施。

その他、被災した農業用ハウスや農作物等の処理、農業用機械等の取得への支援、施設復旧のための資金や運転資金の調達への支援など、専門家が被災農業者を個別に訪問し、農業経営の再開に向けた相談活動を実施するとしています。

農林水産省 HP https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/bunsyo/saigai/200730_1.html

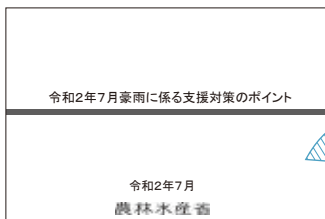


農林水産省 7月豪雨

檢 索

支援対策のポイント

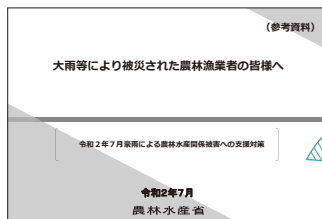
▶ https://www.maff.go.jp/j/saigai/ooame/r0207/pdf/shien_pointo.pdf



支援対策の要点
をわかりやすく
説明

被災された農林漁業者の皆さまへ

▶ https://www.maff.go.jp/j/saigai/ooame/r0207/pdf/shien_minasama.pdf



必要な支援対策に
たどりつきます

浸水被害を受けた水田農業への特別対策

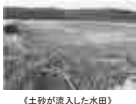
- ・ 令和2年7月豪雨に伴う河川堤防の決壊等により、水田の表土の流亡や土砂堆積等が発生。追加的に行う土づくりなど、特に水田農業への被害が大きいため、営農再開を緊急的に支援。

令和2年7月豪雨による被害

○河川堤防の決壊等に伴う大規模水害により、水田において土壌侵食、表土流出等の被害が発生。



《浸水被害を受けた水田



《土砂が流入した水田》

水田農業継続特別対策

○地域において大規模な洪水被害を受けた水田農業の継続
に向けて行う取組に要する経費を支援。

- 【支援の対象となる取組】
- 土づくり、土壌診断、作業委託及び機械レンタル等
- ・事業実施主体：都道府県、市町村、農業者の組織する団体等
- ・単 価 等：①土づくり：10,000円/10a（定額）
- ②作業委託、機械等レンタル：補助率 1/2
- ③土壌診断：補助率 1/2
- ④令和2年度中の営農再開に必要な生産資材（種子・種苗等の消費財に限る）の購入経費：補助率 1/2

水田農業の継続に向けた取組

-

酪農・畜産関係の支援を受けたい

酪農・畜産に係る被害については、以下による支援を受けることが可能です。

[illegible]



乳牛産地情報

令和2年9月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	38~45	→	札幌管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で102.6%、累計で103.5%、苫小牧管内月計で103.4%、累計で101.8%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。7月の同地域の乳牛市場平均価格が大幅に下がっていたため、8月の乳牛市場平均価格はやや強含みとなりました。9月の購買は秋分娩が中心となりますが、残暑の影響もあり、相場は横這いと予想されます。初妊牛資源については、F1腹・雌雄選別腹ともに頭数は確保できるものと思われます。この地域は高能力牛が出てくる地域ですので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~45	→	根釧管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.7%、累計で101.4%、中標津管内月計で102.0%、累計で102.5%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。8月管内乳牛市場が横這いで推移したため、庭先購買価格も同様の動きとなるものと思われます。腹別ではF1・雌雄選別腹は大きな価格差はなく、和牛受精卵移植腹はやや弱含みとなるものと予想されます。資源状況につきましては、どの腹も確保しやすい見通しとなっています。残暑の状況やギガファームの導入動向次第で相場が大きく動く可能性もありますので、相場については都度お問合せください。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~47	→	帯広管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.9%、累計で102.7%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。8月管内乳牛市場の初妊牛平均相場は猛暑の影響もあり、やや弱含みに推移しました。管内の乳牛市場が6月より8月まで毎月1回の開催でしたが、9月からは毎月2回の開催となります。秋分娩が中心となりますが、上場頭数が多い状況が続いておりますので、相場は横這いと予測されます。初妊牛の資源につきましては、雌雄選別腹の出場頭数が減少しておりますが、頭数は確保できる状況となっておりますので、オーダーがありましたらお早めにご連絡いただきますようお願いいたします。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	38~46	→	道北管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で101.7%、累計で101.6%、北見管内では月計で106.8%、累計で103.9%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。都府県の導入意欲が徐々に強くなっていくと思われますが、資源頭数は前年並み以上と思われるため、価格は横ばいで推移すると思われます。雌雄選別腹の出品が減少傾向のため、F1腹との価格差が少ない状況が続くと思われます。育成牛・経産牛も同様に、価格は横ばいで推移すると思われます。管内で規模拡大農家が数戸あるとの情報もあり、短期的には資源、相場について注視しております。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	38~48	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	38~47	→	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は103.5%、累計で102.5%の実績となっております。道内では、2番牧草の刈取りがスタートしております。またデントコーンは、現在のところ順調な生育による収穫が見込まれております。都府県同様に道内においても夏の暑さが厳しく生乳生産に影響を及ぼしております。11月分娩が中心となる9月の初妊牛動向ですが、初妊牛資源としては豊富であるため、今後も安定した初妊牛の確保が可能と思われます。相場については、大きな変動要素も無いため横這いと予想されますが、今季の猛暑による影響から、道内外からの導入意欲が増してくる可能性は充分にあります。今後も相場に注視しながら、庭先選畜購買を中心に安定した搾乳用素牛を供給して参りますので、購買計画がございましたらお早めに弊会担当者までご連絡いただきますようお願いいたします。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~50	→	

今月の表紙

今月の表紙は『ベッドメイキングは、オレに任せろ! (みんなはしっかり食べてねエ〜)』岡山県 安富 照人氏撮影です。



令和2年9月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 9月号 No.660

●編集・発行人 白鳥建樹

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

●9月も半ばを過ぎ、ようやく秋の気配が感じられてきました。今年の夏は梅雨明けと同時に例年になく厳しい暑さに見舞われました。そして“withコロナ”の新しい日常の中で、文字通りいつもと違う“特別”な夏になりました。人も牛も、夏バテから回復できましたでしょうか?

●会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

初乳粉末製品

GOODSTART PREMIUM

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有

初乳が足りない時、イザという時の備えに、
グッドスタートプレミアムが皆さんのお役に立ちます。

○作業性は「3楽」

～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌ただしい子牛の分娩。

溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末

製品紹介サイトはこちら



牛用配合飼料

SOYCHLOR

ソイクロール

～ソイクロールで移行期を乗り切ろう～

ソイクロールの特長

エネルギーコントロールのしやすさ

乾乳期の過剰なエネルギー給与は、様々な周産期疾病の一因とされます。ソイクロールは、クローズアップ期の代謝タンパクを充足させながらエネルギーのコントロールがしやすい飼料です。

分娩後の代謝を考えたミネラルバランス (DCAD)

ソイクロールはDCADを適正化させる塩素を強化しつつ、不足しがちなマグネシウムとカルシウムも配合しました。乾乳期のDCADを整えることによって、分娩後の良いスタートを切りましょう。

給与量

●給与推奨量 クローズアップ期にて1頭当たり600g～1kg/日

※詳しくは弊会スタッフまで。

お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(310)7676

栃木駐在員事務所 028(689)2871
名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 0868(54)7469

近畿事務所 0794(62)5441
三次事務所 0824(68)2133
福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006